

算出例

温室効果ガス排出量の削減効果及び資源循環の効果算出シート

事業名：〇〇株式会社 廃プラスチック類の油化事業

■該当する類型

類型	1
----	---

■基準シナリオの種別

廃プラスチック類（一般廃棄物）の全国平均の処理

令和8年9月

■目次

1	シナリオの概要と機能単位
2	算出範囲
3	インベントリデータ一覧
4-1	算出結果_温室効果ガス排出量の削減効果（製品バスケット法の場合）
4-2	算出結果_温室効果ガス排出量の削減効果（負荷回避法の場合）
5-1	算出結果_資源循環の効果（類型①）※
5-2	算出結果_資源循環の効果（類型②）※
5-3	算出結果_資源循環の効果（類型③）※
6	改訂履歴

※該当する類型の様式のみ作成すること

1.シナリオの概要と機能単位

改訂番号2入力日令和8年9月1日

事業名：〇〇株式会社 廃プラスチック類の油化事業

■該当する類型

類型	1
----	---

■基準シナリオの種別

廃プラスチック類（一般廃棄物）の全国平均の処理

【入力上の注意】

- ・フォントサイズは8pt以上とすること。
- ・文字切れがないか確認し、必要に応じて行の高さを調整すること。

【入力上の注意】

- ・入力日を記載

■シナリオの概要と機能単位

記入項目		事業シナリオ	基準シナリオ
シナリオ の概要	対象廃棄物	例.廃プラスチック類（一般廃棄物）	例.廃プラスチック類（一般廃棄物）
	再資源化の方法	油化事業 再生油と再生塩酸を製造する事業。残渣は熱回収（発電）とする。	廃棄物の広域移動対策検討調査及び廃棄物等循環利用量実態調査報告書（令和4年度実績）に基づき、廃プラスチック類（一般廃棄物）の平均的な処理割合を把握し、これを基準シナリオとして設定した。 * 素材原料（その他製品原料）はマテリアルリサイクル（再生樹脂）と仮定。 * 燃料化は再生燃料と仮定。 * 焼却（熱回収を含む）は熱回収（発電）と仮定。 * その他は直接埋立と仮定。
			出典
			廃棄物の広域移動対策検討調査及び廃棄物等循環利用量実態調査報告書（令和4年度実績）
機能単位	対象廃棄物を構成する素材や物質の種類と割合	廃プラスチック類（一般廃棄物、製品プラスチックとして回収）100%	廃プラスチック類（一般廃棄物）100%
	製造する再生材の種類と割合	再生油　：0.237t 再生塩酸：0.061t	再生樹脂：0.190t 再生燃料：0.020t
	再生材以外に発生するものの種類と割合	残渣（焼却）：0.147t	残渣（焼却）：0.760t 残渣（埋立）：0.030t
温室効果ガス排出量の削減効果の算出方法に負荷回避法を用いる場合に○と入力する			

【「基準シナリオの種別」 入力上の注意】

（〇〇には対象とする廃棄物を記載）

- ・類型1の場合、「〇〇に係る全国平均の処理」と入力。
- ・類型2の場合、「〇〇に係る通常の再資源化事業」と入力。
- ・類型3の場合、「事業実施前（設備更新前）」または「同種類の通常の設備が導入された事業」のうち、基準シナリオとして採用した設定を入力。

【「基準シナリオ」 入力上の注意】

- ・類型③において、基準シナリオを「同種類の通常の設備が導入された事業」と設定した場合には、「同種類の通常の設備」の設備の種類と性能（出力、処理能力）、その設備に定めた根拠を入力すること。

【「機能単位」 入力上の注意】

- ・対象廃棄物1tあたりの種類と割合は、両シナリオにて等価となるよう設定
- ・再生材、及びシナリオ中発生するものの種類と割合が異なっても構わない。差異が生じた場合は代替効果を算出する。（シート2 参照）

2.算出範囲

事業名：〇〇株式会社 廃プラスチック類の油化事業(類型1)

■各シナリオのプロセス

- 事業A：事業シナリオの再資源化プロセス
- 事業B：基準シナリオに再資源化や熱回収の工程があり、事業シナリオにはその工程がない場合、その再資源化や熱回収によって得られる製品・サービスの天然資源由来の製造プロセス
- 基準A：基準シナリオの処理プロセス
- 基準B：事業シナリオの再資源化と同じ製品・サービスの製造におけるプライマリー材での製造プロセス

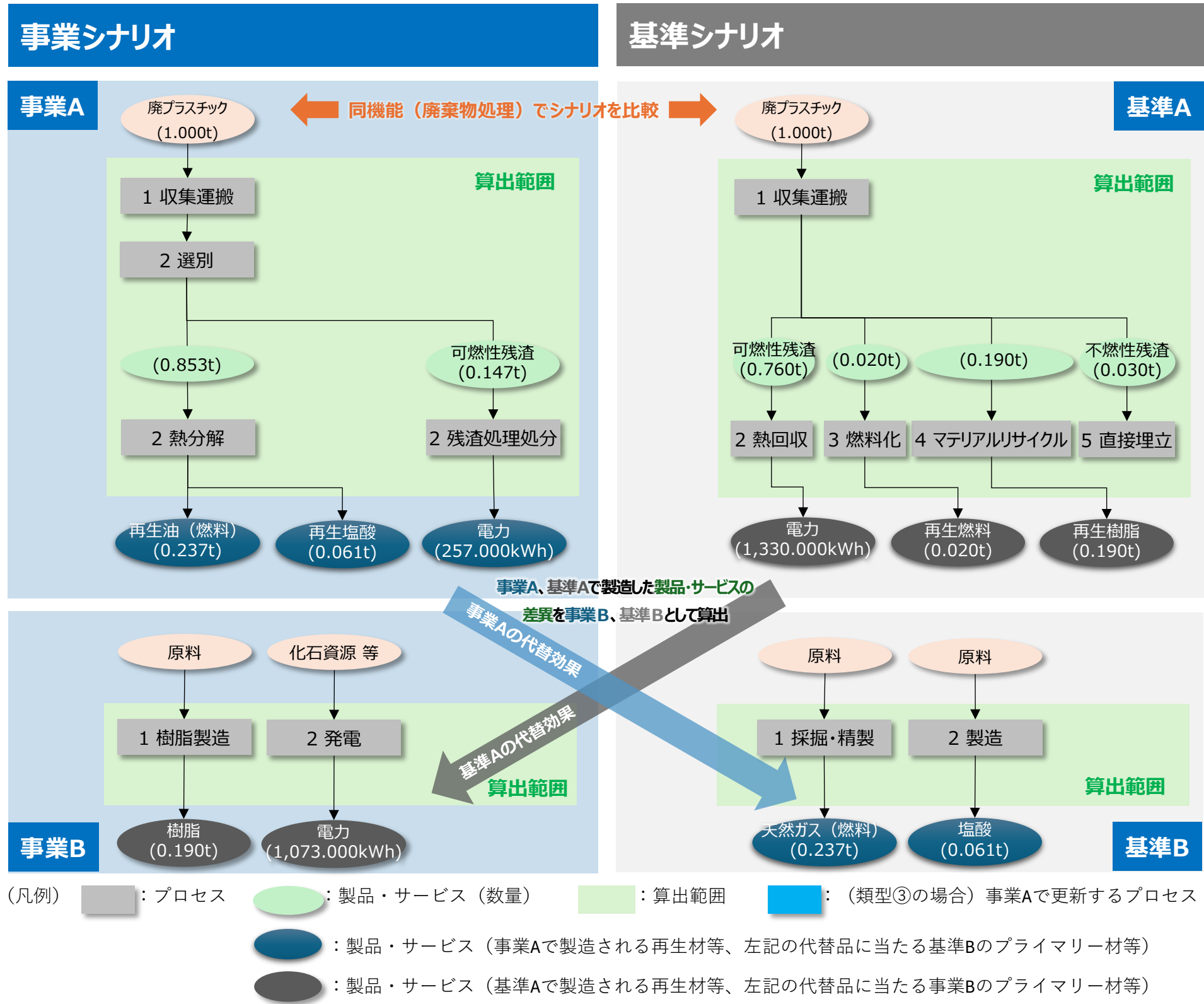
■算出範囲

- 類型①：A⇒収集運搬から残渣処理処分を含む再資源化等のプロセスまで B⇒天然資源由来の製品製造プロセスまで
- 類型②：A⇒収集運搬を除く残渣処理処分を含む再資源化等のプロセスまで B⇒天然資源由来の製品製造プロセスまで
- 類型③：A⇒収集運搬を除く残渣処理処分を含む再資源化等のプロセスのうち事業シナリオで設備更新等を実施するプロセスによって影響を受けるプロセス B⇒天然資源由来の製品製造プロセスまで

■物質収支

算出範囲（事業A、基準A、事業B、基準B）ごとに、「受け入れられる廃棄物・製品」と「外部へ渡される廃棄物・製品」の数量を記載すること。

なお、算出範囲内で、選別工程や熱処理工程などにより複数の中間生成物が発生または製造される場合は、それぞれの数量を記載すること。



【入力上の注意】

- ・ここでいう「受け入れられる廃棄物・製品」とは、外部から各算出範囲に投入される廃棄物や製品・サービスの数量を指す。
- ・「外部へ渡される廃棄物・製品」とは、各算出範囲から外部へ廃棄または供給される廃棄物や製品・サービスの数量を指す。
- ・数量は重量を基本とする。m3、Lなど、重量に換算できる単位は、できるだけ重量で記述すること。ただし、電力量、熱量など重量換算が難しい場合は、それぞれの単位を用いて記述することができる。

【入力上の注意】

- ・算出範囲のプロセスは採番をした上で、図中のプロセス凡例に番号とプロセス名を併記すること。
- ・算出範囲のプロセスは緑色の四角で囲い、算出範囲と物質収支を明示すること。
- ・算出範囲のプロセスが多いなどの理由で、作図に必要なスペースが不足する場合は算出範囲について別ファイルで提出することを認める。
- ・両シナリオの廃棄物と、プロセスが生み出す製品・サービスより等量・等質（機能が等価という意味）であるものをそれぞれ両矢印で示すこと。
- ・「算出範囲」が本シートに収まりきらない場合は、別ファイルで提出してもよい。その場合は以下のとおりで提出すること。
- ・Word、Excel、PowerPoint、PDFのいずれかのファイルによること。
- ・A4サイズで印刷されることを念頭に置き、10pt以上のフォントを用いて作成すること。
- ・ファイル名は「【算出範囲】申請者名_事業名.拡張子」とすること。
- ・類型②の場合、収集運搬のプロセスがシナリオ間で異なる場合、算出範囲に含め、同一の場合は算出範囲から省略することができる。

・事業シナリオ・基準シナリオで同等の製品・サービスを製造する場合、生産量が多いほうのシナリオに合わせ、生産量が少ないほうのシナリオの範囲Bで天然資源由来の製品・サービスの製造プロセスの負荷を計上する。この例では、基準A・事業Aのどちらも熱回収による発電をおこなっているが、基準Aの発電量のほうが大きい。したがって、天然資源由来の発電プロセスは事業Bにのみ設定される。

・範囲Bにおける天然資源由来の製品・サービスの製造には、機能単位として扱われる製品・サービスの数量の記載を必須とする。一方、原料となる天然資源の数量の記載は任意とする。

3.インベントリデータ一覧

改訂番号 2 入力日 令和8年9月1日

事業名：〇〇株式会社 廃プラスチック類の油化事業(類型1)

(1) 温室効果ガス排出量の削減効果に関するインベントリデータ

①事業シナリオ

カテゴリ	No.		プロセス	区分	数値	単位	活動量等の数値を計算した場合に 用いた値、数式	出典における数値の定義・考え方	出典	出典番号
	プロセス	参照								
事業A	1	a	収集運搬	活動量	300.000	tkm	1t×300km=300tkm	事業実態から輸送距離を測定。 廃棄物1tを300km輸送する。	事業実測（事業者ヒアリングより）	2
		b		排出係数	0.084	kgCO2e/tkm	0.0321L/tkm× 2.620kgCO2e/L=0.0841kgCO2e/t km	出典より「10t車・積載率80%・2025 年度基準」の燃費（0.0321L/tkm） と軽油の製造・燃焼にかかる排出係 数（2.620kgCO2e/L）を得て、これ を乗じることで収集運搬の排出係数 を求めた。	経済産業省、国土交通省（2023）「ロ ジスティクス分野におけるCO2排出量 算定方法共同ガイドラインVer.3.2」 p59 表 II-22、p27 図 II-5	3 4
	2	a	選別・残渣処理・熱分解	活動量	1.000	t	—	事業実態から廃プラスチック類の処 理量1tとした。	事業実測（事業者ヒアリングより）	2
		b		排出係数	2,280.000	kgCO2e/t	2.28kgCO2e/kg×1,000kg =2,280kgCO2e/t	出典より「選別・残渣処理・熱分 解」にかかるCO2排出量（合計）を 取得。処理量1tあたりに換算。	海洋プラスチック問題対応協議会 （2022）「産業系廃プラスチックの LCA評価」p47	5
事業B	1	a	樹脂製造	活動量	0.190	t	—	樹脂と再生樹脂を重量で比較し、② 基準A-4aより再生樹脂0.190tが同量 の樹脂を代替すると仮定。	—	—
		b		排出係数	1.914	kgCO2e/t	0.488kgCO2e/0.255kg =1,913.725kgCO2e/t	プライマリー樹脂（PP）の排出係数 を取得。処理量1tあたりに換算。	海洋プラスチック問題対応協議会 （2019）「プラスチック製容器包装再 商品化手法およびエネルギーカバ リーの環境負荷評価（LCA）」p55 表 5-48	6
	2	a	発電	活動量	1,072.750	kWh	1,750kWh/t×0.760t=1,330kWh 1,750kWh/t×0.147t=257.25kWh 1,330kWh－257.25kWh =1072.75kWh	〇〇団体ヒアリングより廃プラス チック1t当たり1,750kWhが売電され ているという情報を得た。 ②基準A-2aより熱回収される廃プラ スチック量0.760tであるため、発電 量は1,330kWh。また、事業Aで発生 する残渣は0.147tであるため、発電 量は257.25kWh。 事業A+Bと基準A+Bでの発電量が等 価であると考え、事業Bでの発電量は 1,330－257.25＝1,072.75kWh。	〇〇団体ヒアリング	2
		b		排出係数	0.423	kgCO2e/kWh	—	電気事業者の排出係数の平均値を取 得。	環境省「温室効果ガス排出量 算定・報 告・公表制度 電気事業者別排出係数一 覧 令和7年提出用」p18	7

【入力上の注意】

- ・フォントサイズは8pt以上とすること。
- ・文字切れがないか確認し、必要に応じて行の高さを調整すること。

【入力上の注意】

- ・本シートは**廃棄物1t当たりの処理**に係る活動量、排出係数を入力する。
- ・「活動量等の数値を計算した場合に用いた値、数式」には、活動量に影響する収率、機器の処理能力等の条件があり、それらを掛け合わせて活動量等を算出した場合に、計算に用いた元の数値と計算式を入力する。
- ・「出典における数値の定義・考え方」には、出典におけるデータの範囲（排出係数の例：鉄鋼製品の製造/ データの範囲：鉄鉱石の採掘、輸送、製鉄、製鋼、鑄造、圧延など）、設定条件（例：データ整備をおこなった地域、対象の技術、データのばらつき等データ採用にあたり留意すべき事項、など）等を明記すること。
- ・活動量を申請者自身の測定値より算出に用いる場合はガイドライン4.1.4を参照し、データの品質についても留意すること。（具体的には、データを測定した期間、データのばらつき・統計的な確からしさに関して記述すること）
（実測値を算出に用いる例：あるプロセスについて、廃棄物1t当たりの電力消費量を計算する場合/ 〇〇〇年〇月～〇〇〇年〇月（12か月間）の〇〇プロセスの消費電力量の合計値を配電盤で計測した（XXXkWh）。同期間の当該プロセスの廃棄物処理量（YYYt）で消費電力量を割り算することで廃棄物1t当たりの電力消費量を算出した。
XXX kWh / YYY t = ZZZ kWh
なお、〇〇〇年〇月～〇〇〇年〇月の月ごとの廃棄物1t当たりの電力消費量は平均値±5%の範囲内に収まることを確認済み）
- ・「出典における数値の定義・考え方」にて、他のインベントリデータを参照する場合は、下記のルールにて参照番号を付記して記載のこと。
記載例：②基準A-3a
＝②基準シナリオ カテゴリ：基準A、プロセス・参照番号：3a を示す。
- ・「No./プロセス」には、「2.算出範囲」シートにて、フロー記載のプロセス凡例と同じプロセス名、番号を用いること。
- ・「プロセス」には、「2.算出範囲」シートのフローに記載のプロセス凡例の名称と同じものを記載のこと。
- ・「出典」に記載の引用箇所のパージ番号、数値について、算出シートには出典資料として添付すること。
出典資料は、引用箇所が分かるようマークを付けたうえで該当ページを提出のこと。
- ・日本語以外の出典を用いる場合は日本語訳も添付すること

②基準シナリオ

カテゴリ	No.		プロセス	区分	数値	単位	活動量等の数値を計算した場合に 用いた値、数式	出典における数値の定義・考え方	出典	出典番号
	プロセス	参照								
基準A	1	a	収集運搬	活動量	50.000	tkm	1t×50km=50tkm	XX市ヒアリングから一般廃棄物の平均輸送距離として50kmと仮定。 廃棄物1tを50km輸送する。	XX市ヒアリング	2
		b		排出係数	0.084	kgCO2e/tkm	0.0321L/tkm× 2.620kgCO2e/L=0.0841kgCO2e/tkm	出典より「10t車・積載率80%・2025年度基準」の燃費（0.0321L/tkm）と軽油の製造・燃焼にかかる排出係数（2.620kgCO2e/L）を得て、これに乗じることで収集運搬の排出係数を求めた。	経済産業省、国土交通省（2023）「ロジスティクス分野におけるCO2排出量算定方法共同ガイドラインVer.3.2」p59 表 II-22、p27 図 II-5	3 4
	2	a	熱回収	活動量	0.760	t	1t×76%=0.76t	廃プラスチック類（一般廃棄物）の熱回収割合	環境省「廃棄物の広域移動対策検討調査及び廃棄物等循環利用量実態調査報告書（令和4年度実績）」p14	8
		b		排出係数	2,760.000	kgCO2e/t	—	廃プラスチック類の焼却にかかる排出係数	環境省「温室効果ガス排出量 算定・報告・公表制度における算定方法・排出係数一覧」p5	9
	3	a	燃料化	活動量	0.020	t	1t×2%=0.02t	廃プラスチック類（一般廃棄物）の燃料化割合	環境省「廃棄物の広域移動対策検討調査及び廃棄物等循環利用量実態調査報告書（令和4年度実績）」p14	8
		b		排出係数	2,825.000	kgCO2e/t	0.109kgCO2e/kg+2.31kgCO2e/kg +0.406kgCO2e/kg=2.825kgCO2e/kg 2.825kgCO2e/kg×1000kg =2,825.000kgCO2e/t	廃プラスチック類の燃料化にかかる排出係数（収集・運搬を除く）を取得。処理量1tあたりに換算。	海洋プラスチック問題対応協議会（2019）「プラスチック製容器包装再商品化手法およびエネルギーリカバリーの環境負荷評価（LCA）」p90 表 5-124	10
	4	a	マテリアルリサイクル	活動量	0.190	t	1t×19%=0.19t	廃プラスチック類（一般廃棄物）のマテリアルリサイクル割合	環境省「廃棄物の広域移動対策検討調査及び廃棄物等循環利用量実態調査報告書（令和4年度実績）」p14	8
		b		排出係数	425.000	kgCO2e/t	0.425kgCO2e/kg×1000kg =425.000kgCO2e/t	廃プラスチック類のマテリアルリサイクル(ペレット製造)にかかる排出係数を取得。処理量1tあたりに換算。	海洋プラスチック問題対応協議会（2019）「プラスチック製容器包装再商品化手法およびエネルギーリカバリーの環境負荷評価（LCA）」p44 表 5-24	11
	5	a	直接埋立	活動量	0.030	t	1t×3%=0.03t	廃プラスチック類（一般廃棄物）の直接埋立割合	環境省「廃棄物の広域移動対策検討調査及び廃棄物等循環利用量実態調査報告書（令和4年度実績）」p14	8
		b		排出係数	0.000	kgCO2e/t	—	廃プラスチック類の直接埋立にかかる排出係数	プラスチックは埋め立て時に無機化されないと仮定し、0と設定	—
	1	a	採掘・精製	活動量	0.237	t	—	天然ガス（燃料）と再生油（燃料）を重量で比較し、③事業A-1より再生油0.237tが石油製品0.237tを代替したと仮定。	—	—
		b		排出係数	X.XXX	kgCO2e/t	—	情報を得られなかったため、下記3で代替。	—	—

基準B	2	a	製造	活動量	0.061	t	—	塩酸と再生塩酸を重量で比較し、③事業A-2より、再生塩酸(10%)0.0613tが同量の塩酸(10%)を代替したと仮定。	—	—
		b		排出係数	X.XXX	kgCO2e/t	—	情報を得られなかったため、下記3で代替。	—	—
	3	a	採掘・精製、製造	活動量	—	—	—	—	—	—
		b		排出係数	1,120.000	kgCO2e/t	1.12kgCO2e/kg×1,000kg=1,120kgCO2e/t	a,b合計の排出係数について出典より取得したもの。処理量1tあたりに換算。	海洋プラスチック問題対応協議会（2022）「産業系廃プラスチックのLCA評価」p48	12

（2）資源循環の効果に関するインベントリデータ

③事業シナリオ

カテゴリ	No.	再生材	数値	単位	活動量等の数値を計算した場合に用いた値、数式	出典における数値の定義・考え方	出典	出典番号
事業A	1	再生油（燃料）	0.237	t	0.237kg/kg×1,000kg=0.237kg/t	油化事業の産出物。処理量1tあたりに換算。	海洋プラスチック問題対応協議会（2022）「産業系廃プラスチックのLCA評価」p46	13
	2	再生塩酸	0.061	t	0.0613kg/kg×1,000kg=0.0613kg/t	油化事業の産出物。処理量1tあたりに換算。	海洋プラスチック問題対応協議会（2022）「産業系廃プラスチックのLCA評価」p46	13

④基準シナリオ

カテゴリ	No.	再生材	数値	単位	活動量等の数値を計算した場合に用いた値、数式	出典における数値の定義・考え方	出典	出典番号
基準A	1	再生燃料	0.020	t	—	燃料化によって製造された再生燃料の量	環境省「廃棄物の広域移動対策検討調査及び廃棄物等循環利用量実態調査報告書（令和4年度実績）」p14	8
	2	再生樹脂	0.190	t	—	マテリアルリサイクルによって製造された再生樹脂の量	環境省「廃棄物の広域移動対策検討調査及び廃棄物等循環利用量実態調査報告書（令和4年度実績）」p14	8

事業名：〇〇株式会社 廃プラスチック類の油化事業(類型1)

3.インベントリデータにおいて、「区分」の活動量を電力消費量とした場合にそのプロセスに関わる設備リストをプロセス毎に作成する。

カテゴリ	No.	プロセス	設備名称	台数	定格出力[kW]	負荷率[%]	消費電力[kW]	備考
	プロセス名							
							0	
							0	
							0	
							0	
							0	
							0	
							0	
							0	
			プロセス内電力 小計				0	

カテゴリ	No.	プロセス	設備名称	台数	定格出力[kW]	負荷率[%]	消費電力[kW]	備考
	プロセス名							
							0	
							0	
							0	
							0	
							0	
							0	
							0	
							0	
			プロセス内電力 小計				0	

【入力上の注意】

・フォントサイズは8pt以上とすること。
・文字切れがないか確認し、必要に応じて行の高さを調整すること。

【入力上の注意】

・本シートは「3.インベントリデータ」において活動量として電力消費量とした場合について、そのプロセスに係る**設備のリスト**を入力する。
・設備リストは1行に1種類の機器について記載すること。
・設備が用いられるプロセスに関する情報（カテゴリ、プロセス名、参照）、設備に関する情報（設備名称、台数、定格出力、負荷率）を記載すること。なお、消費電力は定格出力と負荷率の入力値より自動で計算される。
・以上の記載にあたり、補足情報等がある場合は備考欄に記載すること。

4-1.算出結果_温室効果ガス排出量の削減効果（製品バスケット法の場合）

改訂番号2

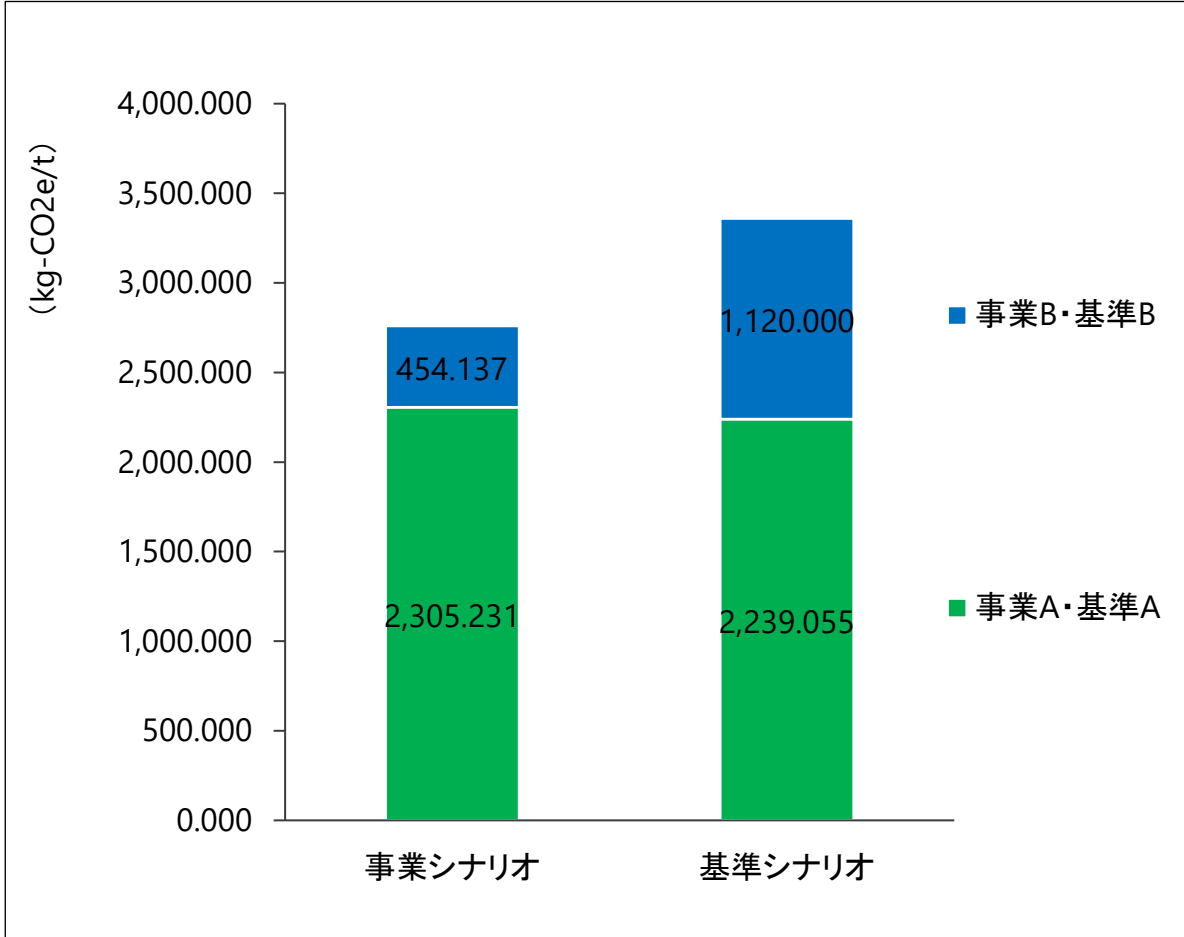
入力日令和8年9月1日

事業名：〇〇株式会社 廃プラスチック類の油化事業(類型1)

（１）温室効果ガス排出量の削減効果

①廃棄物1t当たりの削減量

カテゴリ	項目	排出量 (kg-CO2e/t)
事業A	事業シナリオの再資源化プロセス	2,305.231
事業B	基準シナリオに再資源化や熱回収の工程があり、事業シナリオにはその工程がない場合、その再資源化や熱回収によって得られる製品・サービスの天然資源・プライマリー材由来の製造プロセス	454.137
基準A	基準シナリオの処理プロセス	2,239.055
基準B	事業シナリオの再資源化と同じ製品・サービスの製造におけるプライマリー材での製造プロセス	1,120.000
温室効果ガス排出量の削減効果[kg-CO2e/t] (基準A+基準B)-(事業A+事業B)		599.688
温室効果ガス排出量の削減効果[%] ((基準A+基準B)-(事業A+事業B))/(基準A+基準B)		18%



(2) 算出結果の詳細

活動量および排出係数については、「3.インベントリデータ一覧」に出典、算出方法等を記載すること。
フロー図上のカテゴリとプロセスのNo.を合わせて、記載すること。

①事業シナリオ

カテゴリ	No.	プロセス	活動量			排出係数			排出量 (kg-CO2e/t)
			参照No.	数値	単位	参照No.	数値	単位	
事業A	1	収集運搬	a	300.000	tkm	b	0.084	kgCO2e/tkm	25.231
	2	選別・残渣処理・熱分解	a	1.000	t	b	2,280.000	kgCO2e/t	2,280.000
合計									2,305.231

カテゴリ	No.	プロセス	活動量			排出係数			排出量 (kg-CO2e/t)
			参照No.	数値	単位	参照No.	数値	単位	
事業B	1	樹脂製造	a	0.190	t	b	1.914	kgCO2e/t	0.364
	2	発電	a	1,072.750	kWh	b	0.423	kgCO2e/kWh	453.773
合計									454.137

②基準シナリオ

カテゴリ	No.	プロセス	活動量			排出係数			排出量 (kg-CO2e/t)
			参照No.	数値	単位	参照No.	数値	単位	
基準A	1	収集運搬	a	50.000	tkm	b	0.084	kgCO2e/tkm	4.205
	2	熱回収	a	0.760	t	b	2,760.000	kgCO2e/t	2,097.600
	3	燃料化	a	0.020	t	b	2,825.000	kgCO2e/t	56.500
	4	マテリアルリサイクル	a	0.190	t	b	425.000	kgCO2e/t	80.750
	5	直接埋立	a	0.030	t	b	0.000	kgCO2e/t	0.000
合計									2,239.055

カテゴリ	No.	プロセス	活動量			排出係数			排出量 (kg-CO2e/t)
			参照No.	数値	単位	参照No.	数値	単位	
基準B	1	採掘・精製	a	0.237	t	b	X.XXX	kgCO2e/t	0.000
	2	製造	a	0.061	t	b	X.XXX	kgCO2e/t	0.000
合計									1,120.000

(注) 本入力例では石油製品、塩酸について分けた排出係数を計算できなかったため、まとめた排出係数を算出に用いている。本来は石油製品、塩酸それぞれの製造に対応する排出係数を算出に用いることとなる。

4-2.算出結果_温室効果ガス排出量の削減効果（負荷回避法の場合）

改訂番号2

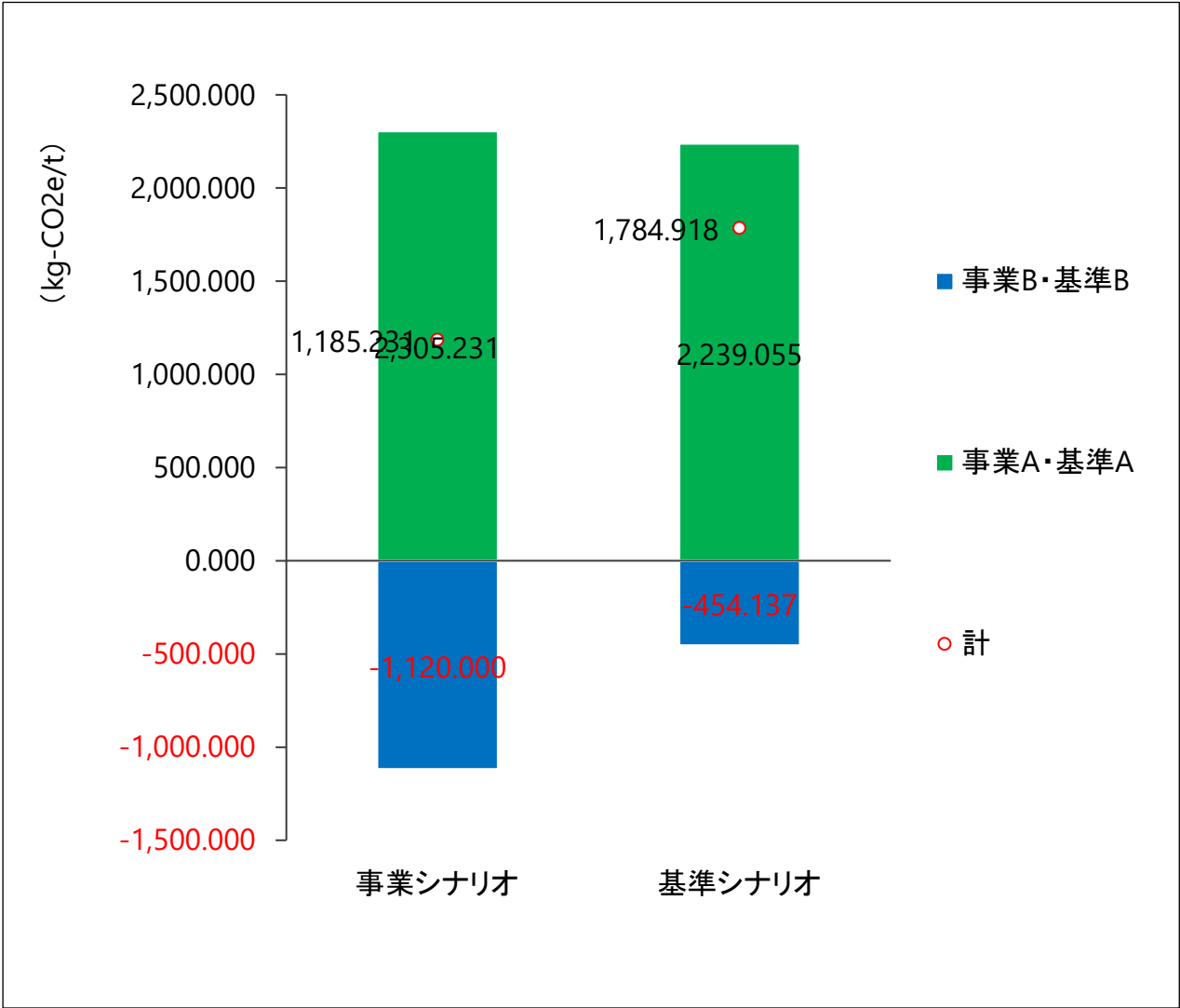
入力日令和8年9月1日

事業名：〇〇株式会社 廃プラスチック類の油化事業(類型1)

（１）温室効果ガス排出量の削減効果

①廃棄物1t当たりの削減量

カテゴリ	項目	排出量 (kg-CO2e/t)
事業A	事業の取組実施による温室効果ガス排出量	2,305.231
基準B	事業シナリオの再資源化と同じ製品の製造における、プライマリー材製造工程での温室効果ガス排出量(負の排出量として計上)	-1,120.000
事業A＋基準B		1,185.231
基準A	廃棄物の適正処理、再資源化又は熱回収の工程での温室効果ガス排出量	2,239.055
事業B	基準シナリオで再資源化や熱回収が行われていたと設定した場合に、従来の処理が行われなくなってしまうことを補うために必要な工程での温室効果ガス排出量（負の排出量として計上）	-454.137
基準A＋事業B		1,784.918
温室効果ガス排出量の削減効果[kg-CO2e/t] (事業A+基準B)-(基準A+事業B)		599.688
温室効果ガス排出量の削減効果[%] ((事業A+基準B)-(基準A+事業B))/(基準A+基準B)		18%



(2) 算出結果の詳細

活動量および排出係数については、「3.インベントリデータ一覧」に出典、算出方法等を記載すること。
フロー図上のカテゴリとプロセスのNo.を合わせて、記載すること。

①事業シナリオ

カテゴリ	No.	プロセス	活動量			排出係数			排出量 (kg-CO2e/t)
			参照No.	数値	単位	参照No.	数値	単位	
事業A	1	収集運搬	a	300.000	tkm	b	0.084	kgCO2e/tkm	25.231
	2	選別・残渣処理・熱分解	a	1.000	t	b	2,280.000	kgCO2e/t	2,280.000
合計									2,305.231

カテゴリ	No.	プロセス	活動量			排出係数			排出量 (kg-CO2e/t)
			参照No.	数値	単位	参照No.	数値	単位	
基準B	1	採掘・精製	a	0.237	t	b	X.XXX	kgCO2e/t	0.000
	2	製造	a	0.061	t	b	X.XXX	kgCO2e/t	0.000
	3	採掘・精製、製造	a	—	—	b	1,120.000	kgCO2e/t	0.000
合計									1,120.000

(注) 本入力例では石油製品、塩酸について分けた排出係数を計算できなかったため、まとめた排出係数を算出に用いている。本来は石油製品、塩酸それぞれの製造に対応する排出係数を算出に用いることとなる。

②基準シナリオ

カテゴリ	No.	プロセス	活動量			排出係数			排出量 (kg-CO2e/t)
			参照No.	数値	単位	参照No.	数値	単位	
基準A	1	収集運搬	a	50.000	tkm	b	0.084	kgCO2e/tkm	4.205
	2	熱回収	a	0.760	t	b	2,760.000	kgCO2e/t	2,097.600
	3	燃料化	a	0.020	t	b	2,825.000	kgCO2e/t	56.500
	4	マテリアルリサイクル	a	0.190	t	b	425.000	kgCO2e/t	80.750
	5	直接埋立	a	0.030	t	b	0.000	kgCO2e/t	0.000
合計									2,239.055

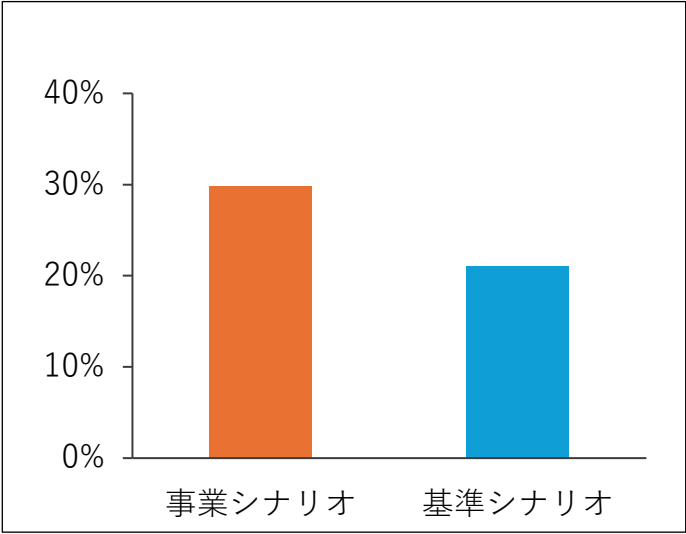
カテゴリ	No.	プロセス	活動量			排出係数			排出量 (kg-CO2e/t)
			参照No.	数値	単位	参照No.	数値	単位	
事業B	1	樹脂製造	a	0.190	t	b	1.914	kgCO2e/t	0.364
	2	発電	a	1,072.750	kWh	b	0.423	kgCO2e/kWh	453.773
合計									454.137

事業名：〇〇株式会社 廃プラスチック類の油化事業(類型1)

（１）資源循環の効果

①廃棄物1t当たりの資源循環の効果

項目	事業シナリオ	基準シナリオ
廃棄物の処理量（t）	1.000	1.000
再生材供給量（t）	0.298	0.210
再生材供給量/ 廃棄物の処理量（％）	30%	21%
資源循環の効果 ＝事業シナリオ－基準シナリオ		9pt



（２）算出結果の詳細

活動量等については、「3.インベントリデータ一覧」に出典、算出方法等を記載すること。

①事業シナリオ

No.	再生材供給量（t）		
	項目名	数値	単位
1	再生油（燃料）	0.237	t
2	再生塩酸	0.061	t
合計		0.298	t

②基準シナリオ

No.	再生材供給量（t）		
	項目名	数値	単位
1	再生燃料	0.020	t
2	再生樹脂	0.190	t
合計		0.210	t

6.改訂履歴

改訂番号2

入力日

令和8年9月1日

改訂月	改訂番号	改訂内容
令和7年11月	0	暫定版公表
令和7年11月	1	正式版公表
令和8年9月	2	改訂版公表